

ご挨拶

代表：横須賀邦子

会の活動を開始してから、3冬目を迎えました。はや第4回フォーラムの準備を始め、4年目に入ろうとしております。今年度は着実に山岳関係者連携のよい結果が現れた年でもありました、来年の第4回フォーラムでは、バイオトイレの試験設置、携帯トイレの回収ボックスの増加、調査登山と各方面の活動報告、全国の先進事例の紹介を交えて北海道の山岳トイレを考えようと準備しております。毎年9月、全道一斉に実施する「山のトイレデー」では、「来年は参加したい」と登山者から暖かい声かけをいただき、活動の成果や広がり大きさを嬉しく感じています。これからも山のトイレ問題の具体的な方法を地域とともに実現したく、一般登山者のご協力に感謝し、行政機関、山岳関係者の協働の姿勢に力を得て、活動していきたいと思っております。今後ともご指導、ご協力をお願い致します。
(2002年12月10日)

活動報告

1. 第3回フォーラムの開催(2002.2.2)

第3回山のトイレを考えるフォーラムが北海道クリスチャンセンターを会場に、トイレ問題に関心のある110名を超える参加者を迎えて行われました。パネラーに幌尻岳を抱える平取山岳会の石森会長、環境省ウトロ自然保護官の遠山さんらを招き、横須賀代表の挨拶、考える会の活動報告、全道各地の状況報告に続いて行政側の取り組み、考える会の取り組み、山のトイレ整備水準案をそれぞれ発表した後から活発な意見交換がなされました。携帯トイレや山中へのトイレ設置など様々な問題があることが改めて認識され、トイレ問題解決への更なる研究と行動の必要性を参加者一同が痛感しました。フォーラム終了後、会場を居酒屋に移しての討論も中身の濃いものでした。フォーラムの詳細はHPをご覧ください。



知床の現状について説明する遠山さん



トイレ整備水準について説明する愛甲さん

2. 山のトイレマップの作成・配布(2002.6)

昨年作成した山のトイレマップ「大雪・十勝編」と全道の「登山口トイレ情報」をバージョンアップしました。マップには、新たに「バイオトイレ情報」「携帯トイレブース情報」「携帯トイレ回収ボックス」等の情報を追加しました。これらは、山のトイレデー、各地の山開き、ビジターセンター、各種イベント等で配布しました。まだ、予備がありますので希望される方はお問い合わせください。



トムラウシ隊(南沼トイレブースの前で)



幌尻隊(幌尻岳山頂)



十勝隊(十勝岳避難小屋前)

3. 山岳エコツアーで山トイレシンポジウム開催(2002.7.14~15)

旭川市と上川町で「山岳エコツーリズムフェスティバル in 北海道2002」が開催され、シンポジウムとモデルエコツアーに全国から多くの人々が参加しました。上川シンポジウム分科会で「トイレから考える登山利用のあり方」が開催され、コーディネーターに当会の会事務局長である愛甲さん、パネラーは横須賀代表ほか3名で、パネラーと会場の参加者による真剣な討論が交わされました。会場からは、早池峰のトイレ問題に取り組んでいる永田京子さんが、9年前からボランティアが山頂トイレの汲み降ろしを人力でやっている活動をウィット溢れる話かたで報告してくれました。また、愛甲さんの「段階的トイレ整備水準」の提案は、北海道だけでなく全国の参加者の注目を集めたようでした。



山岳エコツアーフェスタに参加した会員

4. 2002山のトイレデー実施(2002.9.8)

昨年に引き続き、全道一斉山のトイレデーが実施されました。トムラウシ山、羊蹄山、利尻山など全道の約20箇所の登山口でスカイプルーの爽やかな幟を立て、山のトイレマップ配布、登山者への啓発、ティッシュやゴミを拾う清掃登山を行いました。場所によっては携帯トイレも配布しました。9月8日以外の日にも自主的に活動してくれる人もいて、トイレデーが徐々に認知されてきた手ごたえを感じさせました。ご協力していただいた多くの皆さんに感謝いたします。

5 . 北海道知事へ要望書提出 (2002.11.1)

「山岳トイレ対策における携帯トイレ無償配布の継続と貯留式トイレの影響に関する実態調査実施について」という要望書を北海道知事に提出しました。

当日は横須賀代表と上井さんの2名で、道庁自然環境課を訪れました。要望の主なものは 携帯トイレの無償配布・回収、バイオトイレ試験設置等の諸施策の実施状況と評価の公表 山岳トイレにゴミを捨てないように注意喚起する看板の設置 携帯トイレ無償配布の継続実施と使用済み携帯トイレ回収促進 尿尿や紙、既存のトイレが自然環境に及ぼす影響調査 様々なトイレ方式の北海道山岳地での適用可能性調査 登山者数の把握調査 山岳トイレ対策の実施にあたって、いろいろな団体の意見を聴取する機会を設けることなど7項目です。文書で11月末日まで回答していただくようお願いしました。これを基に北海道との意見交換会を1月に実施する予定です。

北海道でバイオトイレと トイレブースを試験設置！

北海道では、山岳トイレ環境の改善を目指し、6月にトムラウシ短縮路登山口と沼ノ原登山口にバイオトイレを試験設置しました。バイオトイレはオガクズと尿尿を攪拌するための動力が必要ですが、短縮路登山口はソーラー、沼ノ原登山口は自転車こぎによる人力方式です。この試験期間は2年間で、どちらも無臭で快適です。また、トムラウシ沼、裏旭、ニベソツ山前天狗、利尻山に携帯トイレブースが設置され、携帯トイレ利用者にとって朗報でしたが、トイレブースに直接大便をした人がいたり、まだまだ課題も多いです。さらに使用済み携帯トイレ回収ボックスを旭岳ビジターセンター、層雲峡ビジターセンター、トムラウシ東大雪荘の公衆トイレ前、ニベソツ山登山口、石狩岳シュナイダーコース登山口等に設置、今後その有効性と回収システムの検証が実施されます。

6 . 新得山岳会聞き取り調査実施 (2002.11.9)

新得山岳会の聞き取り調査を新得町役場会議室で行いました。当会からは横須賀代表、上井さん、仲俣さんが出席、新得山岳会からは秋田会長はじめ4名が参加していただきました。新得山岳会では6月に短縮路登山口からトムラウシ南沼までテッシュなどで50kgを回収したそうです。南沼野営地については、自然環境を守る意味からトイレを設置した方がよいとの意見が多いとのことでした。使用済み携帯トイレの回収システムの問題、マナー啓発の問題等、約2時間にわたって意見交換、有意義な聞き取り調査でした。山のトイレを考える会では、今後もこのような地元の聞き取り調査を実施したいと考えています。新得山岳会の皆様お忙しい中、ありがとうございました。



トムラウシ短縮路のバイオトイレ



携帯トイレ回収ボックス



沼ノ原登山口バイオトイレの自転車こぎ

7 . 北海道登山研究集会で発表 (2002.11.10)

北海道勤労者山岳連盟の主催による「北海道登山研究集会」2日目の第4分科会「自然保護と環境保全部門」で当会の泉恵子さんが「山のトイレを考える会」としてお話する機会をいただきました(分科会参加者35名)。当会の発足の経緯とこれまでの活動について、また、その中から見えてきた様々な課題について報告しました。特に「山岳トイレ」や「携帯トイレ」を例に挙げ、決定的な解決法はないこと、山域によって解決方法は異なること、そのためには登山者や行政、各山岳会、山岳ガイド、ツアー会社との議論や連携が必要であることをお話ししました。



登山研究集会で発表する泉さん

そして参加者の皆さんに「できることから」トイレ問題の解決にご協力いただけるようお願いしました。

残念！登山者のモラルはどこへ

ヒサゴ沼避難小屋のトイレは、平成13年度、糞尿をヘリで搬出しました。見てください、まるでトイレがゴミ捨て場と化しています。残念！洗剤の容器、ビニール袋、テッシュの袋、生理用品などがびっしり。これらは一部の心無い人が捨てたものと思われませんが、信じたくありませんが、これは事実です。でも弱音を吐くことはできません。私たち登山者は、一人一人が自分自身の問題として捉え、マナーを守って山に登りましょう。山にゴミは捨てないことは勿論、落ちていたら拾おう！もしトイレを誤って汚したら自分で拭いて綺麗にしよう！トイレが汚れていたら清掃しよう！北海道の山をいつまでも綺麗にしよう！



ヒサゴ沼トイレの便屋の中。洗剤の容器、ビニール袋などびっしり

第4回フォーラムは2003年2月1日(土) 多数の参加をお待ちしています！

場所：札幌市生涯学習センター「ちえりあ」
(札幌市西区宮の沢1条1丁目1の10)
TEL：011-671-2200(代表)
時間：午後2時(開演)～午後6時
内容：山域ごとに考える山のトイレ問題

連絡先

事務局長の愛甲さんがアメリカ留学のため、しばらくの間事務局を北大院生の乗富さんが対応しますので、宜しくお願いします。山のトイレの最新情報はホームページを見るか、メーリングリストに加わっていただくとよいと思います。
060-8589 札幌市北区北9条西9丁目 北海道大学大学院農学研究科園芸緑地学講座内
山のトイレを考える会事務局(担当：乗富剛毅)
電話&FAX 011-706-2452 電子メール:hokkaido_yama_toilet@yahoo.co.jp
ホームページ <http://village.infoweb.ne.jp/~yoshio49/mtclean.htm>